

hibiya

「日比谷図書館への思いと都立図書館縮小再編」

私は、千代田区移管があげられている日比谷図書館に深いかわりがありました。1998年、もう7年も前のことになります。

日比谷図書館は青島知事の時に策定の長期計画で、99年度に改築計画予算がつくことになっていました。

それが予算ゼロの通告があり、都職労教育庁支部と日比谷分会は、10月から街頭に出てチラシをまき、署名活動をはじめました。

OL時代は日比谷図書館を利用し、子どもの本の研究をはじめてからは、勉強に利用してきた日比谷図書館の危機に、私は驚きました。

なぜなら、都立図書館は、日比谷図書館の改築を期に、中央・多摩と三館で新しい構想でのサービスを持っていたからです。これを否定する予算ゼロでした。

日比谷図書館は、1908年(明治41年)開館の、日本最初の自治体が設置した図書館です。

児童室を設け、貸し出しをしたので着物姿の子どもたちで満員の盛況だったそうです。以来児童サービスの草分けとして、またその普及、研修の場として活動をしてきた全国的な拠点でした。またその約10万冊の児童書の所蔵は、その質を誇っていました。

私は署名に協力し、知事への提出に参加しました。

この時、日比谷図書館と誕生年が同じ90歳の小河内芳子さん(児童図書館研究会名誉会長)も参加されて、日比谷図書館の廃館は自分が殺される思いと訴えました。

このあとの話し合いから、利用者・都民と職員とで作る「日比谷図書館を考える会」がうまれました。

署名は419団体と14,731名でした。

12月24日予算査定の結果、改修設計費1,000万円がつかしました。

会は「新日比谷図書館を考える会」、目的は改築の確認・新日比谷図書館についての提言、会長は小河内芳子、事務局を私がうけました。

この後、ご承知と思いますが、東京都教育委員会は、都立図書館の縮小再編計画を発表、日比谷図書館の児童書は多摩図書館へ移転、そのため、多摩図書館の蔵書10万冊を再活用という言葉で、除籍しました。

この問題では「捨てるな！」の運動となり2万6千筆の署名と共に縮小反対の陳情を都議会へ提出しました。2002年2月のことでした。結果は「保留」。これは不採択という意味の都議会用語です。

都教育委員会は、都立図書館が持たねばならない保存の役割を放棄しました。そして中央図書館を一級事業所から二級へと格下げし、館長は非常勤です。

これにめげずに多摩地域の図書館職員と利用者が、共同保存図書館構想をねりあげ、NPOでやろうと準備をしています。

さて、「新日比谷図書館を考える会」は「東京の図書館をもっとよくなる会」に解散・合流しました。

このような歴史的な、都の図書館政策の流れを一部の人は、時代の流れと言うでしょう。

しかし、この流れは逆流であって、真実の流れではないと考えます。児童サービスの源流である日比谷図書館の児童室は今、倉庫になっています。

パブリックコメントを書きます。文庫の仲間にも声をかけます。

05.9.12 関 日奈子